

# これからの時代はE C O

(北斗市 清水 千万幸 氏)

## 1 経営の概要

### (1) 家族構成及び労働力

続柄	氏名	年齢	従事日数	備考
本人	清水千万幸	47	周年	全て自家労働
妻	富美子	45	周年	



### (2) 作付構成等 (H21年)

作物名	品種名	作付面積 (a)			備考
		総面積	うち有機	うち JGAP	
水稲	ふっくりんこ	800		800	うち 130a 特別栽培
長いも		10	10		露地栽培
白カブ	スワン	24	24		ハウス栽培
トマト	桃太郎ファイト				
ミニトマト	アイコ				
キュウリ	南極2号				
長ねぎ	元蔵				
レタス	サリナス				
なす	庄屋大長				
ほうれんそう	フライトン他				

## 2 有機農業取組の経緯等

### (1) 有機農業の取組動機

- ・取引先のホテルや八百屋から、有機認証の取得を要望されたこと。
- ・安全・安心な農産物をみんなに食べてもらいたいとの思いから、有機農業を始めた。

### (2) 取組経過

- ・平成15年から果菜類の有機栽培を開始し、平成19年よりトマトの前後作として白かぶ、ほうれんそうを追加した。
- ・異業種交流会を契機にホテルとの取引が始まり、取引先の要望を受けて有機JAS認証を取得することとなった。

(3) 有機農業取組の考え方（こだわり）

- ・取引先ホテルの宿泊客のアンケートで、「おいしいね」と言われることにやりがいを感じる。
- ・自分からは特に宣伝はしていない
- ・これからはE C Oの時代。環境に優しい農業に取り組む必要性を強く感じる。

(4) 有機 J A S 等の認定の取得時期

- ・有機 J A S 平成20年取得
- ・ J G A P //



### 3 有機栽培管理技術等の特徴

[有機栽培管理の概要]

- ・ハウス栽培なので、手作業が主体。
- ・季節によって作物を選択している。  
(平成21年のハウス毎の体系)

	作付体系
ハウス1	レタス → ミニトマト → ほうれんそう
ハウス2	ほうれんそう → ほうれんそう
ハウス3	トマト → ほうれんそう → ほうれんそう
ハウス4	ミニトマト → 白かぶ
ハウス5	きゅうり → 辛み大根等
ハウス6	水稻育苗 → 長ねぎ
ハウス7	なす・ピーマン

[栽培管理技術等のポイント、工夫]

(1) 土づくり

- ・栽培する作物に応じて次の資材を投入し、土づくりに努めている。

資材	調達方法等
①堆肥	自家製（稲わら、籾殻、作物残渣）
②ホテル側からの堆肥	ホテルが製造し定期的に搬入
③発酵鶏糞	購入
④ホタテの貝殻（500℃高温処理）	購入
⑤有機資材（不足分）	購入（EM菌、EMぼかし等）
⑥米ヌカ	自家製（EM菌と混ぜハウスに施用）
⑦バーミキュライト	購入

(3)病害虫防除

- ・トマト・きゅうりのアブラムシ・スリップス対策としてホリバー（害虫が好む色に着色された粘着板）を利用している。

(4)その他

- ・自家製のニンニクペースト、木酢を忌避剤として利用している。

## 4 生産物の出荷・販売

(1)有機JAS格付による有利性

- ・有機JAS格付で、有機JASマークが表示できる。
- ・販売単価は高くなるが、包装資材や小分けの手間など経費も多い。

(2)販路確保の取組（販売先）

- ・ホテル関係、八百屋、飲食店、一般消費者（宅配）
- ・直売は基本的にしていないが、電話での注文であれば受ける。
- ・異業種交流の場に積極的に参加し取組のPRと情報収集を行っている。

(3)販売先との取り決め

- ・ホテル：栽培方法の取り決めはなく、ホテルの求める時期に求める作物を納入できるように作付計画を立てている。
- ・スーパー：品物を見て納得してもらった上で納入する。

## 5 消費者との交流の取組

- ・宅配先のお客様を農場に招き、収穫体験をしてもらっている。
- ・ホテル関係の料理長さんたちにも、農場体験をもらっている。
- ・事前の予約があれば、一般消費者の農業体験を受け入れている。

## 6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

(1)生産者のグループ化

- ・北海道有機農業生産者懇話会、有機生産者勉強会へ参加している。
- ・湯の川温泉組合漁り火祭り、北大水産学部文化祭に参加して即売を行っている。

(2)市町村、農協等の支援

- ・特別な支援はない（今は普及センターが協力してくれている）。

(3)関係機関との連携等

- ・JGAPの認証を取得してから、支庁・市役所とも情報交換をしている。

## 7 今後の課題と方向

(1)今後の課題と取組の方向

- ・これからも消費者などが喜び、有機野菜を作っていきます。
- ・まだまだ有機農業について勉強や情報交換していく場が欲しいです。
- ・品揃のためにも仲間を増やしたいと思っています。私達の住んでいる渡島、檜山地区にもっと多くの有機農家が増えるように各関係機関の指導をお願いします。

(2)新たに有機農業に取り組もうとする人へのアドバイス

- ・認証取得を検討している皆さん、書類作成や記録は大変ですが年々ハードルは高くなると聞いています。早くチャレンジして仲間になってください。

〈作成：渡島農業改良普及センター〉